

# DIGITABLE 第 19 回勉強会レポート

2008 年 10 月 25 日 於：亀戸文化センター（第三研修室）



## デジタルフォト基礎講座 6 「各種 RAW ソフトでのワークフロー」

担当：高木大輔 講師

### (事例研究) 「遺影を撮る！入門」

担当：山口明夫 会員

### Photoshop 研究講座 「スマートオブジェクト 他」

担当：平野正志 講師

## デジタルフォト基礎講座 6 「各種 RAW ソフトでのワークフロー」

担当：高木大輔 講師

### (要約)

#### ○デジタル写真のワークフロー

この 2～3 年、プロおよびハイユーザの間では複数のデジタルカメラの使用が一般的になってきたことと、処理枚数の膨大化により、複数のメーカーの RAW、JPEG 等を区別なく選別、処理していくことが求められ、またその処理速度の向上が叫ばれている。これらのソフトの特徴を正しく理解することにより、従来からのデジタル処理の無駄を省き作業スピードも大きく改善する。

#### ○汎用ブラウザソフト フォトのつばさ Pro

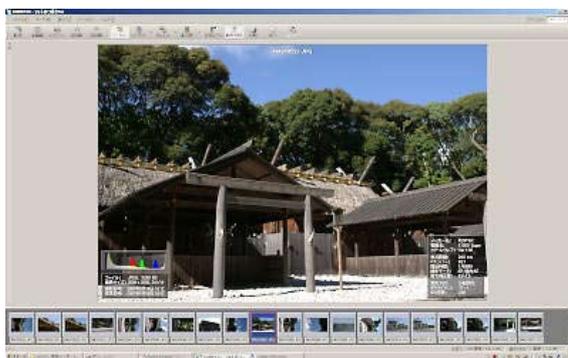
このソフトの特徴は、なんといっても表示や画面切り替えなどの動作が素早いことにある。1000 万画素を超えるようなデジカメの画像も一瞬で表示する上、次の画像への切り替えも瞬時に行える。次々と画像が切り替わっていく様子は、まるでアニメーションを見ているかのようだ。大量の画像を次々と見ていく際も全くストレスがない。また、プログラムのサイズが約 1.1MB ととても小さく、プログラムのインストール作業もとても簡単。使用するマシンスペックを問わないのも嬉しい特徴で、当日デモに使用した数年前のノート PC でも全くストレスは無かった。(一説には 98 のマシンでも問題なく作業できるという)

選択の機能は、画像を選択した状態で「F10 キー」を押せば自動的にそのフォルダ内に「CHICE」のフォルダーが出来、画像自体がコピーされる。

ざっと見ながらガンガン F10 で選んでさらに「CHICE」



高木大輔講師



横位置写真に合わせたレイアウトにもできる。また、画像の上に EXIF データを重ねて表示することも可能 (クリックで拡大します)

内を絞り込むといった操作は実に痛快だ。ちょっと大胆だが一次「CHYOICE」が出来た時点でさっさと重たい元フォルダを捨ててしまうという使い方も出来る。フォトのつばさ Pro は、画像を素早く確認することに機能を絞り、使いやすさと速度を追求しており、増え続ける写真データの整理にもってこいの存在といえる。

(※ Win 専用だが、このソフトを使用したいが故に Mac から Win に改宗したプロも多くいるという)

### ○ Adobe Phoshop Lightroom

Photoshop がバージョンアップを重ねる毎に高性能・複雑化しているのに対して、デジタルカメラで撮影したデータのセレクトと現像・基本調整に特化したソフトで、シンプルで分かりやすい使い勝手を備える。モジュールはファイルセレクト用の「ライブラリ」、RAW 現像用の「現像」、プレゼン用の「スライドショー」、プリント作業用の「プリント」、Web ギャラリー用の「Web」の5つに分かれており、それぞれが専用ソフトのように動作する。

RAW データを RAW データのまま選択・編集・画像処理を行う非破壊編集処理が特徴で、RAW データには補正処理のパラメータとプレビューデータが付加された形で保存されている。JPEG の画像も機能制限はあるが RAW とほぼ同様の補正が出来る。もちろん TIFF や JPEG など汎用的フォーマットで出力・保存することもでき、他ソフトへの受け渡しも可能だが、ほとんどの作業は出力までを含めて Lightroom の中で完結するのが本来の使い方といって良いだろう。

画像データはプロジェクト単位で読み込まれるが、あまり一つのプロジェクト内の枚数を増やさないことが、快適な操作感のコツ。

### ○ SILKYPIX Developer Studio 3.0 (市川ソフトラボラトリー)

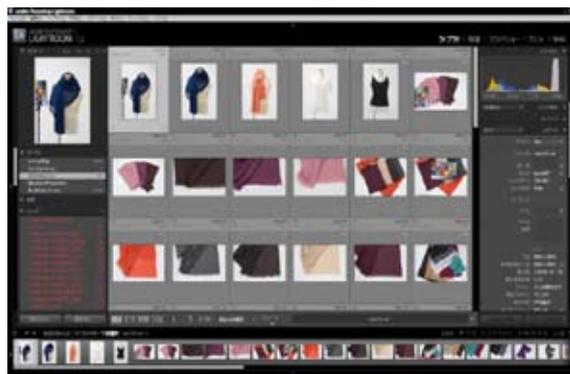
Lightroom や Aperture と同様、非破壊編集主義が採用され、SILKYPIX 上で行われる編集作業は全てパラメータファイルに記録され、元の RAW データには一切変更を加えない。しかもこれは JPEG や TIF データに対しても全く同様だ。

メイン画面左上のフォルダアイコンから「フォルダを開く」でフォルダを指定すると、サムネイル画像がオープンする。Light Room や Photoshop Elements のような「画像の読み込み」は必要なく、ストレスは少ないが、ビューアソフトとしては速度も遅く、ちょっと物足りないかも知れない。

同社独自の現像方式で、解像感の点でも優れた画像を作り出す。メイン画面左側の設定パネルで各現像パラメータのプリセットの選択が出来、導入初日から迷うことなく作業が行なえるのが魅力だ。



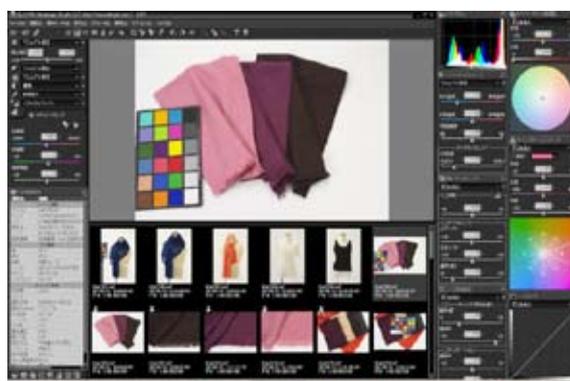
似た構図のカットを選択するとき便利な2~4画像同時表示もある。画像複数表示させた状態でマウスをクリックすると、全ての画像が等倍表示になり、同期の状態画像を上下左右にスクロールできる



Lightroom の基本画面 左右の表示エリアは必要に応じ整理可能



補正前後の比較表示がさまざまに行える 一目で分かりたいへん便利☆



SILKYPIX Developer Studio 3.0 の基本画面

他にも、トーンカーブ、ホワイトバランス微調整、ダイナミックレンジ拡張機能、ファインカラーコントロール（Photoshopの「色相・彩度」機能に近似）、レンズ収差補正、肌色指定ツールやグレーバランスツール、回転・デジタルシフト機能といった変形機能も分かりやすい。

それらの調整パラメータは「Cntr+V」で他のコマに瞬時に適用出来たり、「選択コマの一括現像」などもデジタルワークフローをよく考慮されており、たいへん使いやすく「日本人好み」操作感だ。

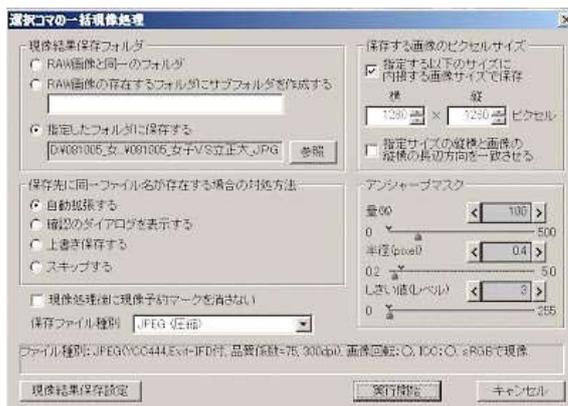
「記憶色」や「美肌色」、「ベルビアモード」など11種類のカラーモードが用意され、画像の仕上がりのテイストの統一にきわめて有効で、作品作りにも大いに活用できるものと思われる。（本人 記）

\*\*\*\*\*

（コメントや意見の追加をお願いします）



調整中の画面 さまざまな階調のメニューが秀逸だ（画面は「ベルビアモード」を選択）



「選択コマの一括現像」の画面  
書き出し画像サイズ、シャープネス、ファイル形式圧縮率、解像度、色空間などが並び、Photoshopのバッチ指定より分かりやすく作業性に優れている

## ★（事例研究）「遺影を撮る！入門」

担当：山口明夫 会員

恒例の会員による事例発表は、山口明夫会員。当初は別の題材を予定されていたが、身近で葬儀関係が続いたこともあり、目下関心の高いテーマを「皆で考えてみよう」という嗜好である。

### （要約）

#### \* 遺影写真の定義

葬儀および死後の長期間に、遺族および窮地の人々が故人を偲ぶ目的で作成する写真、絵画。

残されたものが故人と対話する際、故人と生きた時間の記憶を思い出させるトリガー（引き金）となるのが役割である。

#### \* 何が求められるか？

故人の人柄、幸せであったことを遺族に実感させる＝残されたものの、心の痛み、喪失感を慰める機能。

#### \* 遺影商業写真業者

遺影写真の業者としては、現在はネット上での宣伝・展開が花盛りである。いわゆる複写から着せ替えは、5,000円からあるようだが、デジタル技術の進歩で「シミ抜き」から「増毛」、「アゴをすっきりと」等等、美容整形ばりのところもある。

納期は即日から二日程度、ネット上の受けなので24時間体制が常識だ。

尚、葬儀自体のトレンドとして、明るく、カジュアルに、故人が生きていたときのように行なう「リビング葬」が人気を呼んでいる。



山口明夫 会員



遺影写真制作業者のサイトがたくさんある

\*写真家として一枚上の遺影を撮る

さて最後は、我々がいかにより遺影を撮るか？がテーマの話し合いだ。

同氏の参加する四谷写真塾の佐藤篤先生からのアドバイスとして、

○普段から撮りためておく

○お祝い事などで出かける前の元気な顔を撮っておく

(=帰ってくると疲れている)

○室内の背景無しの順光、サイド光など明るく出来るだけ影を作らない

○アングルは同レベルかやや下から

○身内の人に話しかけてもらって、カメラ目線を避けるなどがあったようだ。

当会の会員からもいろいろな話があったが、特に「相手に信頼させる、カメラの張ったりも大事！」(笠原)

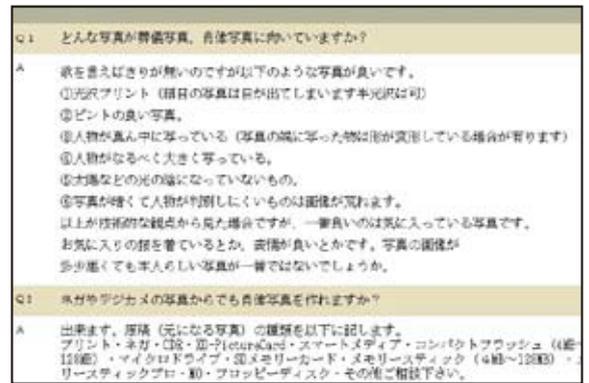
「遺影は見上げる関係で、特にレベルは重要。

相手とのコミュニケーションで自然な表情が得られてからシャッターを押す。同性ならネクタイや着付けを直すなどのボディコンタクトも有効」(高木)

などの現場のプロならではの意見も相次いだ。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)



「どんな写真が遺影に向いているか？」のコーナー



当日朝撮った「練習用の画像」を前に

## Photoshop 研究講座 「スマートオブジェクト・スマートフィルター」

担当：平野正志 講師

(要約)

○「解像属」でサイズ変更

撮影した画像を「解像属」でサイズ変更してみる。再サンプルのチェックを入れて解像度を 300 にしてみると、ピクセル数そのものもファイルサイズも変更される。ドキュメントのサイズ(幅・高さ)はそのまま保存される。画像の解像度変更はバイキュービックで再サンプリング(補間処理)されているの分かる。

○スマートオブジェクト

RAW 撮影ファイルを現像時にスマートオブジェクトとして開くことが出来る。スマートオブジェクトは「元データを損なわずに変形などが行える非破壊編集」ということで、作業に制約もあるが本来はイラストレーターなどのデータをフォトショップ上で自由に変形したりすることに使用するようだ。

イメージ・色調調整からはほとんどの調整が不可能だが、調整レイヤーからは可能になっている。

その他の調整も制限がありながら様々に可能なようだ。

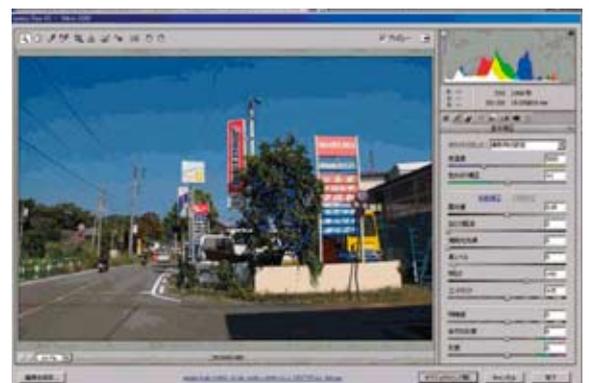
RAW ファイルを通常通り現像ソフトで開いて PSD 保存したものと、同様にスマートオブジェクトで保存したものを比べると、スマートオブジェクトの方が重くなっているの分かる。

さらに双方を縮小・再拡大して比べたところ、通常の画像はいったん間引かれた状態から補完されるため、粗くなっているのに対し、スマートオブジェクトの方は元の品質を保っている。但し、これらの作業でスマートオブジェクトのファイルサイズは更に重くなっている。

スマートオブジェクトと通常の PSD 画像、および RAW 現像からの直接拡大を比べたところ、ほとんど画質の差は見られなかった。但しこれは実験値の拡大率(約 1.4 倍)が低いため、顕著化していないのかも知れない。



平野正志 講師



RAW 撮影ファイルを現像時にスマートオブジェクトとして開くことが出来る

○「配置」でできるレイヤーがスマートオブジェクト  
ファイルメニューの中に配置という項目がある。配置する文書を開いておき、「配置」を選びファイルを選択すると、書類の中に画像が配置される。言葉どおり位置やサイズを自由に変更できる。

この配置された画像がスマートオブジェクトのマークがついたレイヤーとなり、画像に右のようなマークが付き、拡大縮小できる。

レイヤーをダブルクリックすると、もと画像のファイルが聞き、再調整などが加えられる。保存すると配置した画像ファイルに調整が反映される。

配置された画像の角にはパウンテンボックスができ、角を動かせば再度拡大縮小できる。

配置はイラストレーターなどのファイルをフォトショップ上に貼り付けて、レイアウトするとき使用するよう、元ファイルとセットで保存する必要があるが、貼り付けた画像の再調整が可能なのが特徴だ。

### ○スマートフィルター

PhotoshopCS3にはスマートフィルターの機能が新設されている。

元画像を変更せずに適用でき、いつでも再編集が可能であるため、画像を保存し直したり最初から操作をやり直すことなく、様々なフィルタや設定を試すことができる。スマートフィルタのマスク領域を編集して、フィルタが影響する画像領域を精密に調整することができる。またスマートフィルタはスマートオブジェクトのレイヤーごとに適用されるため、画像の拡大縮小、変形、フィルタ処理を効果的かつオリジナル画像を壊さない非破壊編集ワークフローで行なうことができるのが魅力だ。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

PhotoshopCS2でスマートオブジェクトが可能か？といった観点で復習してみました。

RAWファイルから直接スマートオブジェクトを作ること出来ませんでしたので、通常のファイルのレイヤーを複製する形で、「スマートオブジェクト」に変換しました。いろいろ制限はありましたが、右のように画像の変形、縮小拡大を繰り返すと効果的なのはよく分かりました。何回も試行錯誤を繰り返す複雑な変形、ワープなどには、早速使い途がありそうです。

最後のスマートフィルターは、PhotoshopCS3でないと完全に利用出来ないようで、こればかりは残念です。

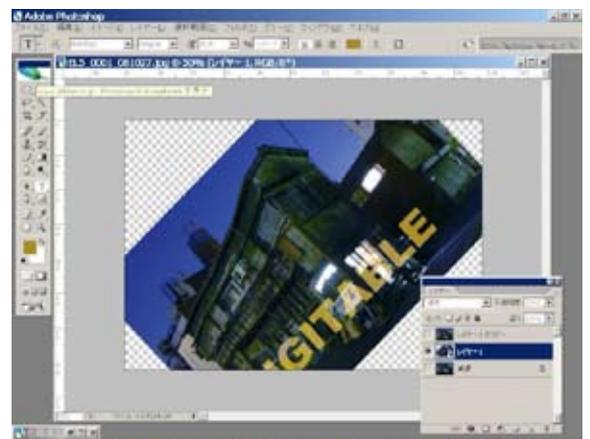
(高木)



文書に「配置」された画像



スマートフィルターによる作業



CS2でのスマートフィルターによる変形・合成の実験



今月の一枚：遺影の研究！  
映画「おくりびと」の死化粧のシーン